



[評者]

小杉 俊介

飯塚病院総合診療科

チーフレジデント直伝！ デキる指導医になる70の方法

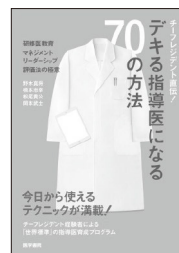
研修医教育・マネジメント・
リーダーシップ・評価法の極意

野木 真将, 橋本 忠幸,
松尾 貴公, 岡本 武士 著

●A5 頁352 2022年5月

定価: 3,960 円 (本体 3,600 円+税 10%)

[ISBN978-4-260-03655-9] 医学書院刊



「指導医」と聞くと「自分なんか指導医とはまだ言えないし」と思われる若手医師も多いと思います。しかし、研修医1年目であっても学生が実習に来ることもあるし、研修医2年目は1年目から気軽に相談を受けることは日常茶飯事だと思います。このように若手医師もいろいろなシチュエーションで実は「指導(教育)」をしています。

しかし、本邦では、例えば厚労省が行っている指導医講習会も卒後7年目以降の医師が主な受講対象者となり、若手の医療者が「指導」について体系的に学ぶ場はあまりなく、「指導」については教わることなく見様見真似で行っていることが多いと思います。

書籍としても、医学教育の概念的なことが書かれたものはたくさん出ていますが、いずれも「指導医」レベルを想定して書かれており、若手医師が遭遇しやすい具体的なシチュエーション別の記述や具体化した対応策の記載などが載っているものはあまりありませんでした。

本書はそういった、若手医師がまず疑問に思うことや実際に遭遇するようなシチュエーションを、日本・米国どちらでもチーフレジデント(研修医の代表)を務めた野木真将先生を筆頭に、飯塚病院と聖路加国際病院という日本での研修医教育のリーダー的存在の病院でチーフレジデントを務めた橋本忠幸先生・松尾貴公先生・岡本武士先生が実際の自身の経験と医学教育の理論やエビデンスをミックスさせた形でわかりやすく書かれています。

読者(若手医師)に比較的近い卒後10年目を越えたばかりの先生方が著者のため、著者らが指導医として成長してくるなかで疑問に思ったことや調べたことなどは若手医師が疑問に思うことや困ることと直結しており、そういったものが網羅されている一冊だと思います。

「後輩ができた(既に後輩がいる)」医療者はぜひ一度読まれることを強くお勧めします。